

FIN/SUM 2026
片山大臣ビデオメッセージ
2026年3月3日（火）9:20～9:25

<導入>

財務大臣兼金融担当大臣の片山さつきです。

本日は、「FIN/SUM（フィンサム）2026」にご参加いただき、誠にありがとうございます。

2016年に始まった本カンファレンスも今回で10回目を迎えました。FIN/SUMが10年にわたり開催されてきたことは、金融とテクノロジーの交差点に立つ日本の取組が着実に深化してきた証です。今回も、国内外から金融とテクノロジーの最前線を担う皆様が集まり、金融の未来の姿を議論されることを、大変心強く感じております。

今回はAIとブロックチェーンをテーマに掲げております。本日はこの2つのテーマについて申し上げたいと思います。

<AI>

まず、AIについてです。

政府としては、半導体・AIを17の戦略分野の1つとして位置付けております。AIは多様な分野で活用が進む中、金融分野においても例外ではありません。とりわけ、金融業務の効率性やサービス利便性の向上につなげるためには、AI活用をどのように金融実務の現場に落とし込んでいくかが重要だと考えています。

この観点から、金融庁に設置した「AI官民フォーラム」では、3メガバンクを含む大手金融機関の経営陣やAIモデル開発者等の幅広い関係者を交え、AIの活用事例や実務上の課題について議論を深めてきました。この1年で、AIを活用した顧客向けサービスや、提供の際のリスク低減に向けた対応について検討が進んでいることなどが明らかになったことから、本日、これらを盛り込んだ「AIディスカッションペーパー」の改訂版を公表し

ます。

金融機関の皆様には、AI のリスク・懸念に適切に対処しつつ、業務効率化や顧客利便性の向上を引き続き積極的に進めて頂くことを期待しております。

<ブロックチェーン>

次に、ブロックチェーンです。

日本では、暗号資産やステーブルコインに関する制度整備を世界に先駆けて進めてまいりました。

米国ではステーブルコインに関する連邦レベルの規制枠組みである GENIUS 法が成立し、市場拡大への期待が高まっています。トークン化預金についても、大手商業銀行を中心に取組が進められています。

日本でも、昨年、国内初の円建てステーブルコインが発行されました。3メガバンクによるステーブルコイン共同発行に向けた実証実験も前進しているほか、ステーブルコインに限らず、トークン化預金の発行を検討する金融機関も増えております。

こうした取組で重要なのは、技術そのものではなく、どの業務でどのように効率化や安全性を実現するかという視点です。金融庁では、昨年 11 月に「決済高度化プロジェクト」、通称 PIP（ピップ）を立ち上げ、事業者の実証実験を後押ししています。また、第 2 号支援案件として、ブロックチェーンを活用した証券決済の高度化に関する実証実験も決定しました。

さらに、デジタル資産の国際的な取引拡大を見据えると、マネー・ローンダリングへの対応を含めて、国際的な協調も重要なトピックです。財務大臣兼金融担当大臣への就任直後やその後も何度か、米国のスコット・ベッセント財務長官との会談を行いました。日米間で意見交換していききたい旨を申し上げました。各国で規制・監督上の対応が模索される中、国際的な議論にも日本も貢献・リードしていききたいと考えています。

本年はまさに「デジタル元年」。こうしたデジタル分野の取組

は一段と進展するでしょう。技術の進化が早い分野だからこそ、「可能性を狭めない柔軟さ」と「利用者保護の確保」の両立が重要です。国際的な動向も踏まえながら、日本にふさわしい形でデジタル金融の発展を後押ししてまいります。

<結び>

今年のFIN/SUMでは、AIやブロックチェーンに加えて、「資産運用立国」や「地域金融の強化」といった、我が国の成長戦略上の重要なテーマについても議論が深まることを期待しております。

ご登壇者の皆様方、そして10回目の開催に向けてご尽力くださった関係者の皆様に、この場を借りて厚く感謝を申し上げます。今回のFIN/SUMが、これまで以上に実り豊かな議論を生むものとなることを心より祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

(以上)